MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

# ミステリ読書案内

２０２２．１２．２５　発行元
第 430 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

## 中・高校生にお薦めの本その21

中学生、高校生にお薦めするミステリ本の紹介の２１回目。今回も少し前に出版された作品を取り上げてみた。２０００年以降であれば、物語の取り巻く環境など現在とそれほど違和感はないはずである。

### 作家別に考えてみると

中学生、高校生にお薦めするミステリを考える時、私の頭には「適している」と思える作家たちが思い浮かぶ。古いところでは赤川次郎とか、辻真先とかの大御所に当たる人たち。特に初期の頃の作品はレベルが高いので特にお薦め。

次に「はやみねかおる」とか松原秀行などのジュニア物からスタート作家たちは安心してお薦めできる。読みやすさ抜群。西尾維新も奇抜さでは群を抜く。

最近の作家となるとライト文芸ミステリ系のものが多い。椹野道流、望月麻衣、太田紫織、白川紺子、篠原美季、近江泉美、辻村七子、河野裕、仲町六絵、緑川聖司、澤村御影、蒼月海里、柊サナカ…。でも、ミステリの枠からはみ出てしまう作品も多いのが特徴。

『学園ミステリ』というジャンル分けも存在するが、今回選んだ作品は必ずしも『学園』というわけではない。「若者」は必ず登場しているけれども。若い人たちにはいろんな作品を手に取ってもらえばと思う。

### 田代裕彦「平井骸惚此中に有り」

２００４年富士見ミステリー文庫。このシリーズは「其五」まで５冊出ている。第一巻だけは『探偵作家は沈黙する』の題名で角川文庫から再刊された。ライト文芸であり、キャラクター文芸でもあり、大正時代を舞台にした時代ミステリでもある。

ようやく探偵小説が定着しつつあった大正１２年の話。探偵小説家の平井骸惚の元に河上太一が弟子入りするところから話は始まる。河上君が中心だが探偵役は骸惚。骸惚の娘の涼嬢が河上君を助けてくれる。「ございました」という特異な文体が目を引く。骸惚先生の知人の池谷是人氏が不可解な自殺をする。思いの外本格謎解きのスタイルが良く出来ている。

### 滝田務雄『不良品探偵』

２０１７年創元推理文庫。高校生が主人公なので「学園ミステリ」かと錯覚させるが、ほとんど「学園」から離れていく一方…。二人の高校生と地元警察によるドタバタ喜劇。一応の探偵役は高校生の藍須救武(あいすきゅうぶ)。コンビを組むのが後輩の白城一馬(はくじょうかずま)。藍須の普段の言動はタガが外れた「伝説の不良品」。でも「謎」を前にすると途端に名探偵に早変わりして、推理を滔々と展開する。第一話で殺人事件が発生するが、サラリと解決。第四話の『マグロの頭で警察署の見学篇』が最も派手な動き。現実にこんなことをしたら、つるし上げにあうぞ。ダジャレも後半になるほど勢いづいて…。気楽に読む一冊。

### 柏井壽『京都下鴨なぞとき写真帖』

２０１８年ＰＨＰ文芸文庫。柏井壽名義では『鴨川食堂』が有名だが、ミステリも柏木圭一郎名義で多数手がけている。本書は、京都にある老舗料亭の「糺の森(ただすのもり)山荘」に婿入りした朱堂旬が主人公。八代目の当主になったものの、稼業はほとんどお任せ。朝、仕出し料理配達用自転車でショップに商品を届けると、誰にも知られないように素早く着替え。人気写真家・金田一ムートンに早変わり。自由になる時間を使って、気に入った京都の名所などを撮影して回る。その途中で出会うのが謎の人物や謎の事件。作者の得意とするグルメの話や京都観光に結び付く情報満載のシリーズ。

### 川崎草志『崖っぷち町役場』

２０１６年祥伝社文庫。このシリーズは本書が第一作で、この後『浜辺の銀河』『明日の架ける道』の２冊が出ている。作者は愛媛県の出身で、地元の地域おこし、地域の未来を切り開こうとする熱意が込められた作品である。

主人公は若い町役場職員の私(沢井結衣)。松山市の出身なのだが、祖母の住む南予町に就職。農業、林業、漁業の町。街はどんどんシャッター通りに。借金がかさんで町村合併からも見放されている。まさに崖っぷち。新しく町長になった本倉氏は「ゆるキャラ町おこし」などのピント外れの施策を提案し、町職員からは敬遠され気味に。そこで町長が目を付けたのが「推進室」。決まった仕事はなく、持ち込まれた面倒ごとを引き受けるのが役目。結衣は、庶務課から推進室へ移動。行ってみると昼行燈と呼ばれる北室長と担当の一ッ木は将棋をして過ごしているばかり。焦る結衣だが、次々対応を迫られる懸案が持ち込まれてくる。難題を誰がどんなふうに解決に持っていくかが読みどころ。